

# 会議結果報告書

1	会議名	第1回戸別収集実験事業意見交換会（茅ヶ崎南地区）
2	日時	令和7年6月29日（日）14:00～15:00
3	場所	高砂コミュニティセンター ホール1・2
4	出席者	（資源循環課）垣内課長補佐、八幡主事、尾崎主事 （環境事業センター）小田主査 （茅ヶ崎南地区）参加人数：18人
5	内容	<p>資料に基づき、第1回戸別収集実験事業意見交換会を実施した。主な質問と意見は次のとおりであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 収集時間の変更に関して、事前にお知らせいただきたかった。</li> <li>● 15時00分過ぎに収集するエリアにおいては、排出時間である8時30分から収集されるまでの間に、カラス被害が多く発生していた。4月当初は、環境指導員が収集車両と一緒に回り、排出指導をするなど対応した。ポリバケツに入れて出されている場合はカラスに荒らされることはないが、鳥獣対策をせず、指定袋を直に出している場合は特にカラスに荒らされていた。ネットを活用した鳥獣対策をして出している場合であっても、適切に覆われていないと、隙間からネットを動かしごみを引っ張り出してしまうことがあった。現在は、環境指導員が一軒一軒「ポリバケツ等を利用するように。」と指導したこともあり、カラスの被害は落ち着いている。</li> <li>● 現在、環境指導員は、収集車両が回収する前に地域を回り、カラス被害に遭いそうなごみを回収している。共働き世帯などが朝出したごみは、その後収集されるまでカラスに荒らされてしまうことがある。排出時間と収集時間の間にどのように対応すればよいか、実験事業を通して考えをとりまとめていただきたい。 → 戸別収集は、排出者自身が排出するごみに対して責任をもつということが特徴であるため、各個人の意識を高められるように市は後押しをしていく。</li> <li>● 4月当初は、鳥獣対策をせず指定袋を直にで出してもカラス被害に遭うことはなかったが、多くの方がポリバケツで出すようになり、指定袋を直に出している方のごみをごみであると認識して、集中攻撃をするようになった。</li> <li>● 松林地区のカラスがいなくなったと聞き、茅ヶ崎南地区に集まっているのではないかと思う。</li> <li>● 中海岸一丁目では、ポリバケツや衣装ケース等を利用していることが多いため、カラス被害に関する問い合わせは受けたことがない。</li> <li>● サザン通り沿いのステーションでは、通りすがりにごみを出されてしまっていたが、環境事業センターに対応を依頼して収集していただくとともに注意喚起のポスターを掲示していただいたことで、通りすがりのごみ出しがなくなった。中海岸自</li> </ul>

治会一帯で戸別収集を行っていただければ、このようなことがなかったのではないかと考える。

- 収集時間が変更したことで、朝の時間にゆとりができたという声を聞いている。
- 幸町では、茅ヶ崎駅近くの問題があったステーションを除いて、住宅地のステーションへの排出は確認しておらず、スムーズに移行することができている。一部の敷地内に専用のステーションを設けていないアパートでは、カラス被害を受けているという問い合わせがあったが、環境事業センターが対応してくださり、改善されている。
- 共恵東自治会のエリアでは、カラスイケイケを設置することがなくなったことが、非常に良くなったと聞いている。女性や高齢者が重たいカラスイケイケを運ぶ必要が無くなって、負担が軽減されている。
- ステーションの維持管理負担の軽減という観点においては、プラスチック製容器包装類でのステーションの維持管理負担を感じることがあるため、燃やせるごみに限らずプラスチック製容器包装類の戸別収集の実施も検討していただきたい。
- プラスチック製容器包装類の排出量が増えており、プラスチック製容器包装類が類する資源物のステーションは、ごみとは異なる設置基準であるため、利用容量が超過している。以前、アパートには全ての品目を回収できるようにステーションを設置させる取り組みを行うという話があったが、是非実行に向けて取り組んでいただきたい。
- 戸別収集実験事業の実施に際して、管理会社やオーナー等に対して燃やせるごみのステーションを設置する依頼をしていたが、燃やせるごみのみを対象としていることが多く、燃やせないごみや資源物を収集するステーションとなっていないことが多い。地域課題を解決していくために、設置依頼等取り組みを進めていきたいと考えている。
- ステーションの利用者を受け入れるほどの余裕がないような切羽詰まっている状況でもある。
- 地域課題を解決できるように相談を受け付けているため、個別に環境事業センターまでご連絡いただきたい。
- 燃やせるごみとプラスチック製容器包装類を同じステーションで収集できれば、排出者にとっても環境指導員にとっても良いのではないかと考える。特に、排出者にとっては、品目によって分けて出すことがなくなり、誤って出してしまうことがなくなると考える。
- 戸別収集になったことで、戸建て住宅への指導はしやすくなったが、アパートに

対しては、変わらず誰に話をすればよいか分からず、環境事業センターに対応を依頼している。環境指導員として、どのように指導したらよいか悩む時があるため、役割分担を明確にしていきたい。

- 戸別収集となったことで、事業者による家庭ごみのなりすまし排出がなくなっている。加えて、自治会に加入する事業者も数は少ないが確認できており、事業者への効果を確認ができています。

- 事業者が黄色の指定袋を使用して排出することがなくなったと感じている。

- 幸町では、事業者が変わらずステーションに出しており、それを収集職員が回収している様子を確認している。

→ 後ほど、具体的なステーションの場所を教えてください。

- 戸別収集実験事業を実施して以降、カラスイケイケをごみ集積場所に設置しなくなったことで、燃やせるごみの集積場所への通りすがりにごみ出しをしていくことはなくなった。それ以外の集積場所では、ごみを出せる場所だと分かってしまうため、通りすがりに出されてしまうこともある。

- 野球場の近くの公園付近のステーションにおいて、来園者の一人がごみを捨てるとそこにごみを捨てても良いと判断して何個もごみを出されてしまう。公園や海のごみ箱が無くなったことで、地域のステーションに、また地域住民がそのごみを受け止めなければならなくなっている。茅ヶ崎市として観光客を呼び込もうとしているのであれば、その観光客が出すごみを集める場所を設けるべきである。戸別収集の実施に向けた取り組みに限らず、観光客のごみ問題に対しても取り組んでいきたい。

- ステーション収集ではごみ出しの際に安否確認ができていたが、戸別収集となったことでそれができなくなり、寂しいという声があった。

- 戸別収集を実施することで多額の費用がかかると思うが、それは市民生活に影響があるか。

→ 市の事業は、市の中で事業実施の優先度をつけ、必要な予算を配分している。現時点では、戸別収集を実施することで新たな負担を求めるということは検討していないため、ご安心いただきたい。

- 戸別収集を絶対に継続してほしい。加えて、プラスチック製容器包装類もあわせて戸別収集を実施してほしい。

以上